

昭和八年十二月

日立案

書記官長

主筆

書記官



書記官



國際電氣通信條約御批准ノ件

審査報告

謹テ今回御諮詢ノ國際電氣通信條約御批准ノ

從來電氣通信ニ關スル國際協會

件ヲ審査スルニ現行ノ萬國電報條約ノ明者ノ

及條約ニ有線
議事會ニ無線
年國際無線電信條約ハ昭和二年孰レモ列國會
議ニ於テ議定セラルモナルカ爾後當該
二種アリ

條約ノ規定ニ從ヒ必要ナル政訂ヲ加フヘキコ
トヲ審議スル爲メ關係列國會議ハ各別ニ數次
開催セラルル然ルニ大戰後國際間ニ於テ右

令會議及兩
兩條約併合シテ議起リ大正十四年及昭和三年ノ
萬國電信會議並昭和二年ノ國際無線電信會議

ニ於テモ其ノ趣旨ノ希望表明アリタルニ因リ
客年九月ヨリ十二月ニ互リ西班牙國「マドリッ

ド」ニ於テ右兩會議ヲ同時ニ開催シ從前ノ二條
現行ノ明治八年ノ萬國電信條約及昭和二年ノ國際

無線電信條

約ニ代ルヘキ一條約ヲ協定シ同年十二月九日

日本朝鮮、其臺灣、樺太、南滿洲租借地及帝國內南洋羣島、

帝國全權委員ハ列國全權委員ト共ニ之ニ署名

件

シタリ是レ即チ華ニ本院ニ御諮詢アラセラル

タル條約ナリ

本條約ハ前記萬國電信條約及國際無線電信條

約ヲ併合統一シテ一切ノ電氣通信ニ通スル單

一條約ト爲シ加ハルニ現行兩條約締結以後ニ

經驗ニ鑑ミ

於ケル時世ノ變遷及電氣通信ノ發達ニ適應ス

ト認ルニ加ヘ

ト必要ナル改正ヲ以テセムトスルモノニシ

今其ノ内容ニ付

形式上從前ノ兩條約ヲ代ルモノナルモ實質

上条ト異ル所ノ要點ヲ擧クレハ左ノ如シ

國際

(一) 電氣通信聯合ノ形成

有線

從來國際電信ニ付テハ萬國電信條約ニ依リ

ト稱スルモノ存在シ

電信聯合ヲ形成シ又國際無線電信ニ付テハ

特ニ聯合ト稱ハサルモ事實國際無線電信條

約ニ依リ聯合ヲ形成スルト認ムヘキモノ存在

シタルカ本條約ハ此等ノ聯合ニ代ルヘキモ

國際

ノトシテ單一ナル電氣通信聯合ヲ形成スル

モノトセリ

二 附屬規則

(二) 附屬規則

條約ノ細則ヲ定ムル所ノ附屬規則トシテ現
 行ノ萬國電信條約ニハ單一ノ國際業務規則
 アリ又國際無線電信條約ニハ一般規則及追
 加規則ノ二種アリ然ルニ本條約ノ下ニ
 附屬規則ハ
 加規則ノ二種アリ然ルニ本條約ノ下ニ分ツ
 電信規則、電話規則及無線通信規則(更ニ之

5

ヲ一般規則及追加規則ニ分ツ)ノ三種ト爲シ

締結^約政府ハ少クトモ其ノ一種ニ参加スルコ

トヲ要スルモノトシ各規則ハ條約トハ別ニ

加入及廢棄ノ目的タルコトヲ得ルモノトセ

リ而シテ條約中ノ規定ハ當該締約政府力當

事者タル規則ノ規律スル業務ニ付テノミ締
約政府ヲ拘束スルモノトセリ

(三) 舊條約ノ廢止

現行ノ二條約ニ於テハ其ノ各舊條約トノ間

ニ如何ナル關係ヲ生スルヤ

明

カ

リシモ本

ニ於テハ從来ノ各舊條約ハ新條約

條約トシテ依リ締約政府間ニ於テハ舊條約

廢止セラレ且之ニ代ルモノナルコトヲ明

ニシタリ

(四) 仲裁裁判制度ノ改正

現行ノ萬國電信條約ニハ仲裁裁判ニ關スル

秘 密 附

規定ナク又國際無線電信條約ニハ其ノ規定
アルモ仲裁裁判ノ行ハルル場合ヲ二箇ノ締
約政府間ノ紛争ノミニ限定シタルノミニナラ
ス其ノ條規モ簡單ニシテ紛争國間ニ既ニ一
般の仲裁裁判手續ニ關スル約定アリタル場

合トノ關係紛争ト外交交渉トノ關係仲裁手
續等ニ關シ規定スル所ナカリシカ本條約ハ
之ニ關シ詳細ナル規定ヲ設ケ(イ)數箇國間ノ
紛争モ亦之ヲ仲裁裁判ニ付シ得ヘキモノト
シ(ロ)紛争カ外交上ノ手續ニ依リ解決セラレ

編 察 院

サルトキニ於テ之ヲ仲裁裁判ニ付スヘキモ

ノトシハ仲裁者ノ選定ニ關シ當事者間ニ十

別

紛争解決ニ關スル 其ノ手續 依ルコトヲ得

ルモノナルコトヲ明ニシ(三)政府ノ外個人又

ハ主管廳モ亦仲裁者タリ得ルモノトシ(四)國

際無線電信條約ニ於テハ仲裁裁判ハ先由ニ

ムルヲ原則トシ意見見一致セザルトキハ

仲裁者ヲシテ裁定セシメ裁定調トサルトキ

更ニ一仲裁者ヲ参加セシムルコトトシタル

原則トシテ

モ本條約ハ最初ヨリ三仲裁者ヲシテ裁定ヲ

但シ單

行ハシムルコトトシ(ハ)一仲裁者ノミヲ以テ

機密附

モ裁定ヲ爲サシムルコトヲ得ルモノトシト

裁判手續ハ仲裁者ニ於テ自ラ之ヲ定ムヘキ

(四) 紛争取調ノ費用及
モノトシ其ノ他仲裁費用等ニ關スル規定

ノ負擔ヲ定メ
者

散ナタリ

(五) 聯合事務局ニ關スル規定ノ改正

現行二條約ニ於テハ聯合事務局ニ關スル規

其ノ詳

定ハ各其ノ大綱ヲ條約中ニ掲ケ細目ハ之ヲ

附屬規則ニ讓リタルモ本條約ニ於テハ該規

同局ノ任務費用等ニ關スル

來ハ三附屬規則ニ未達ト總則的規定トシテ

其ノ他ノ規定ヲ三附屬規則ニ讓リ又

之ヲ條約中ニ收メ其條約併合ニ伴ヒ事務局

編
密
院

ノ名稱ヲ國際電氣通信聯合事務局ト改メタ

リ

(六) 會議ニ關スル規定ノ變更

(イ) 條約及附屬規則改正ノ爲ノ會議ニ關シ萬

國電信條約ニ於テハ附屬規則改正ノ爲ニス

ル主管廳會議ノ開催ノミニニ付規定シ國際無

線電信條約ニ於テハ條約及附屬規則改正ノ

爲全權委員ノ會議ヲ開催スハキコトヲ定メ

タルカ本條約ハ條約改正ノ爲ノ會議ト附屬

規則改正ノ爲ノ會議トヲ分別シ前者ニ付テ

機密

ハ全權委員ノ會議後者ニ付テハ主管廳會議

ヲ開催スルコトノ原則ヲ定メ(四)從來萬國電

信會議及國際無線電信會議ニ於テハ事實上

私企業力表決權ヲ有セス^ニ討議ニ参加スル

コトヲ認メタルカ本條約ハ明文ヲ以テ之ヲ

規定シ(ハ)會議ノ用語ニ關シテハ現行ノ二條

約中ニ別段ノ規定ナク從來會議毎ニ定メラ

ルル内部規則ニ依リ佛語ヲ使用シタルカ本

條約ニ於テハ佛英兩語ヲ以テ會議用語トシ

但夕陳述者ニ於テ佛語又ハ英語ノ翻譯ヲ供

臨
密
院

スルコトヲ條件トシテ他ノ國語ヲモ使用シ
得ルコトトシタリ

(七) 公衆ノ無差別待遇

從來ノ條約中ニハ國際電氣通信業務ヲ利用
スル公衆ノ取扱ニ關シ差別的待遇ヲ爲ササ

ルハキ旨ノ明文ナカリシモ本條約ハ業務料
金及保障ハ一切ノ發信人ニ對シ同一ナルハ
キ旨ノ原則ヲ掲ケタリ

(八) 通信ノ秘密保護ノ例外

本條約ハ從來ノ條約ニ於テ認メラレタル通

嚴守

信ノ秘密確保ノ原則ニ對シ實際上ノ必要ニ
基キ國內法令ノ適用又ハ條約ノ施行ヲ確保
スル爲ニハ締約政府ハ國際通信ヲ權限アル
機關ニ通知スル權利ヲ有スル旨ノ例外ヲ新
ニ設ケタリ

(九)(十)

公序良俗ニ反スル電話通信ノ切斷

現行一萬國電傳條約ニ於テハ國際電話ニ關

シ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル通信ノ

切斷ニ付別段ノ規定ナカリシモ本條約ハ右

通信ノ切斷ヲ爲シ得ル旨ノ明文ヲ設ケタリ

福
松
院

機
密
防
止

(十) (十一) 料金制定ノ委任

現行ノ萬國電信條約ニ於テハ二國間、同一

線路ヲ經由スル通信ノ料金ハ雙方同一ナル

向ノ何ルタルヲ問ハズ

ハキコト、料金額ハ關係政府ノ協議ニ依リ之

ヲ定ムルコト、料金ハ何時ニテモ改正シ得ヘ

キコト、局報ノ傳送ハ無料ナルハキコト等電

更ニ
附屬規則ヲ以テ料金ヲ明細ニ規定ス

信料金制定ノ基礎條件ヲ規定シ國際無線電

凡テ

信條約ニ於テハ料金及料金免除ノ場合ハ附

屬規則ノ定ムル所ニ依ル旨ヲ規定シタルカ

全テ
之カ規定シテ所屬規則ニ

本條約ハ後者ノ例ヲ襲踏シ條約中ニ規定セ

新設シタリ
サハロトセ

(土) 貨幣單位ノ制定

現行ノ萬國電信條約ニ於テハ料金ノ計算等

構成

ニ用フル貨幣單位ハ之ヲ「フラン」ト定メ其ノ

内容ハ附屬規則中ニ之ヲ規定シタルモ本條

約ハ之ヲ其ノ規定中ニ取入レ貨幣單位ハ重

右

量三十一分ノ十グラムニシテ千分ノ九百ナ

品位

ル百「サンチム」ノ金「フラン」ト定メタリ

(三) 呼出符號ノ不正使用ノ取締

本條約ハ無線通信局カ自國ニ割當テラレサ

區
完

ル呼出符號ヲ使用スルコトニ對シ締約政府
ハ之カ防遏ノ爲必要ナル處置ヲ執ルヘキコ
トヲ新ニ定メタリ

(五) 官報ノ發出資格

現行ノ萬國電信條約ニ於テハ官報發出ノ資

16

格アル者ヲ國ノ元首、大臣、陸海軍司令長官、外
交官及領事ニ限リタルモ本條約ハ其ノ範圍
ヲ擴張シテ殖民地、保護領、海外領土又ハ主權
權力若ハ委任統治ノ下ニ在ル地域ノ長官、空
軍ノ司令長官及國際聯盟事務總長ニ迄及ホ

シタリ

（ノ電氣通信）

按スルニ本條約ハ有線無線ノ電氣通信ニ關スル現在ノ國際制度ヲ改良スルニ當リ、實情ニ鑑ミ有線無線ノ電氣通信ニ關スル現在ノ國際制度ヲ改良スルニ當リ、

ハ現在ノ國際制度ヲ改良スルニ當リ、進歩ニ適應セズ其

適應セズ

他實際ノ事情ニ因リ改訂ヲ要スルモノアル

ニ際シテ

該制度ヲ整備シ其ノ運用ヲ圓滑ナラ

シムル爲從來ノ關係ニ條約ヲ併合統一ニ併セ

テ適當ナル改訂ヲ施サムトスル趣旨ヲ以テ列

國間ニ協定セラレタルモノニシテ其ノ旨意ニ

於テ固^{敢テ}キリ不可ナク其ノ條項亦別ニ支障ノ虞

ナキニ由リ之ヲ御批准アラセラルルコト當然

ナリ仍テ本件ハ此ノ儘之ヲ可決セラレ然ルハ
之ト思料ス

右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス

年十二月十六日 書記官長

議長宛

昭和八年十二月 日立案

主筆 書記官

書記官長

書記官

關東廳官制中改正ノ件審査報告

謹テ今回御諮詢ノ關東廳官制中改正ノ件ヲ

審査スルニ本案ハ關東廳ニ於テ阿片及麻藥類

ノ取締ニ關スル事務増加ノ為屬及技手各一人ヲ